

# 2017年3月期 決算説明会



欧州仕様「スイフト」

# スズキ株式会社

2017.5.12

## 通期実績

- **連結業績 … 減収増益、各利益過去最高※1**
  - ・売上高 3兆1,695億円、前期比▲ 0.3% 5期振り減収
  - ・営業利益 2,667億円、前期比+36.5%
  - ・経常利益 2,867億円、前期比+37.1% } 2期連続増益
  - ・当期純利益※2 1,600億円、前期比+37.1%

(特別損益…投資有価証券売却益478億円、減損損失399億円計上)
- **四輪世界販売 … 2,918千台 (前期比+2.0%) で過去最高※1**
  - ・中国、インドネシア、パキスタンで減少したものの、インド、欧州等で増加
- **二輪世界販売 … 1,367千台 (前期比▲8.9%)**
  - ・インド、フィリピンで増加したものの、中国、インドネシア、北米等で減少

## 一株当り配当

- **年間配当44円 (予想比+10円、前期比+12円) 7期連続増配**
  - ・自己資本比率低下もあり、前期同様、投資有価証券売却益を除く当期純利益※2を基礎に配当性向15%を適用

※1. 連結決算公表(1978年3月期)以来、過去最高

※2. 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

## 次期予想

### ●通期業績 … 投資拡大（研究開発費・減価償却費増） もあり増収減益見込み

- ・売上高 3兆4,000億円、前期比+ 7.3%
- ・営業利益 2,400億円、前期比▲ 10.0%  
(研究開発費増▲190億円、減価償却費増▲170億円)
- ・経常利益 2,550億円、前期比▲ 11.1%
- ・当期純利益※ 1,450億円、前期比▲ 9.4%

### ●四輪世界販売 … 3,071千台、前期比+153千台

- ・インド、アセアン、欧州での拡販により、300万台超えを目指す
- ・インドは前期比+8%目標

### ●二輪世界販売 … 1,419千台、前期比+ 52千台

- ・日本、欧米での大型二輪車、インド、アセアンでの販売増を見込む

### ●配当予想 … 前期を据置き

## 減収増益・各利益過去最高

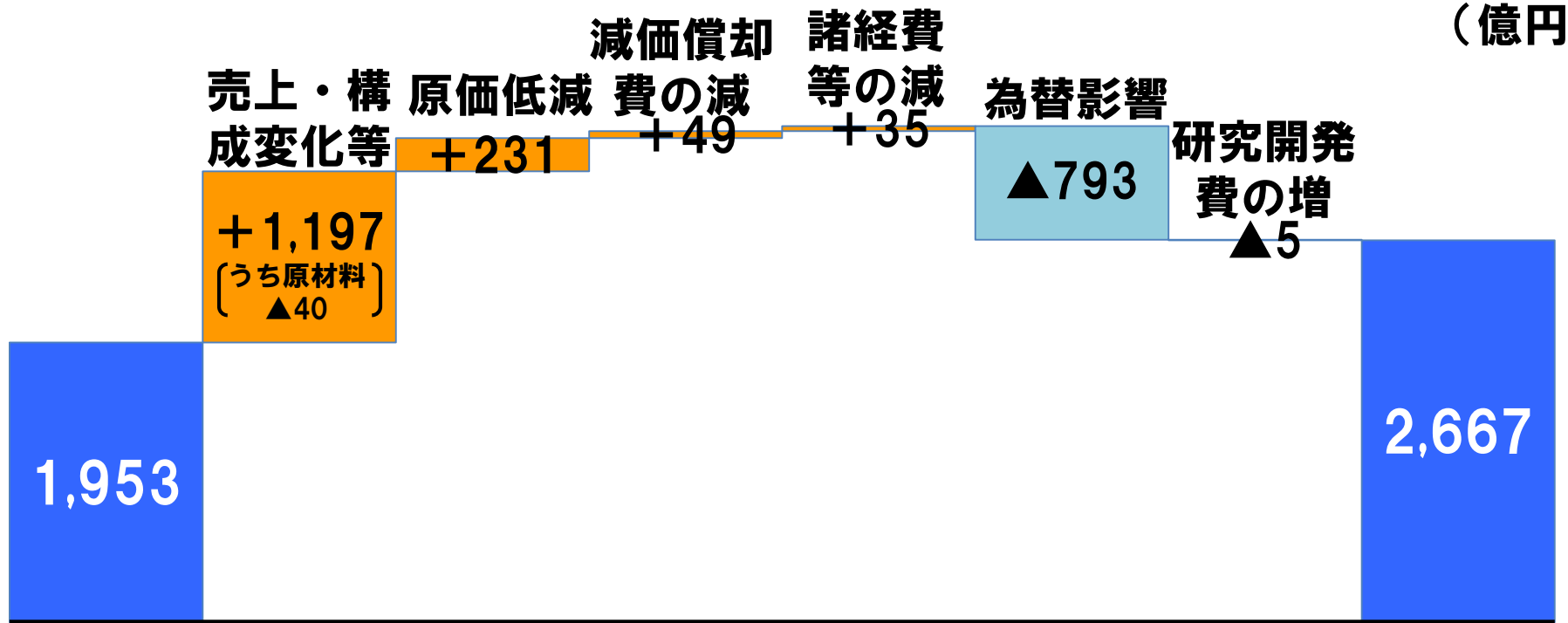
(億円)	当 期 (’16/4-’17/3)	前 期 (’15/4-’16/3)	増 減	
			増 減	増減率
売上高	31,695	31,807	▲112	▲0.3%
国内売上	10,375	10,479	▲104	▲1.0%
自 社	9,488	9,447	+41	+0.4%
O E M	887	1,032	▲145	▲14.0%
海外売上	21,320	21,328	▲8	▲0.0%
営業利益 (利益率)	2,667 (8.4%)	1,953 (6.1%)	+714	+36.5%
経常利益 (利益率)	2,867 (9.0%)	2,091 (6.6%)	+776	+37.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (利益率)	1,600 (5.0%)	1,167 (3.7%)	+433	+37.1%

## 為替影響等により減収

(億円)	四輪車			二輪車			特機等			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	10,026	10,110	▲84	193	213	▲20	156	156	▲0	10,375	10,479	▲104	
自 社	9,139	9,078	+61	193	213	▲20	156	156	▲0	9,488	9,447	+41	
OEM	887	1,032	▲145							887	1,032	▲145	
海外計	18,930	18,675	+255	1,870	2,126	▲256	520	527	▲7	21,320	21,328	▲8	▲2,667
欧州	3,742	3,478	+264	369	417	▲48	142	153	▲11	4,253	4,048	+205	▲599
北米	22	42	▲20	299	390	▲91	240	238	+2	561	670	▲109	▲61
アジア	13,021	12,994	+27	861	908	▲47	48	45	+3	13,930	13,947	▲17	▲1,754
インド	9,870	9,488	+382	316	316	+0	2	3	▲1	10,188	9,807	+381	▲1,309
"以外	3,151	3,506	▲355	545	592	▲47	46	42	+4	3,742	4,140	▲398	▲445
その他	2,145	2,161	▲16	341	411	▲70	90	91	▲1	2,576	2,663	▲87	▲253
総合計	28,956	28,785	+171	2,063	2,339	▲276	676	683	▲7	31,695	31,807	▲112	▲2,667
内、為替 換算影響			▲2,403			▲220			▲44			▲2,667	

注. 当期…2016年4～2017年3月期、前期…2015年4～2016年3月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

(億円)



前期  
営業利益

当期  
営業利益

増益要因 +1,512

減益要因 ▲798

営業利益 +714

	当 期 ( '16/4-'17/3)	前 期 ( '15/4-'16/3)	増 減	営業利益 為替影響
米ドル	108円	120円	▲12円	▲63億円
ユーロ	119円	133円	▲14円	▲148億円
インドルピー	1.63円	1.85円	▲0.22円	▲277億円
インドネシアルピア (100ルピア当り)	0.82円	0.89円	▲0.07円	▲25億円
タイバーツ	3.08円	3.44円	▲0.36円	+36億円
その他	—	—	—	▲316億円 ※
計				▲793億円

※ポンド▲138億円、メキシコペソ▲56億円、パキスタンルピー▲38億円、豪ドル▲23億円、他

# 連結：設備投資、減価償却費、 研究開発費、及び有利子負債残高

(億円)

	当 期 ( '16/4-'17/3 )	前 期 ( '15/4-'16/3 )	増 減
(当社単独)	672	660	+12
(子会社)	1,316	1,055	+261
設備投資	1,988	1,715	+273
減価償却費	1,634	1,683	▲49
研究開発費	1,315	1,310	+5

	当期末	前期末		当第3四半期末	
	( '17/3末 )	( '16/3末 )	増 減	( '16/12末 )	増 減
有利子負債残高	6,399	5,293	+1,106	6,703	▲304



## スズキの受賞は8年振り4回目

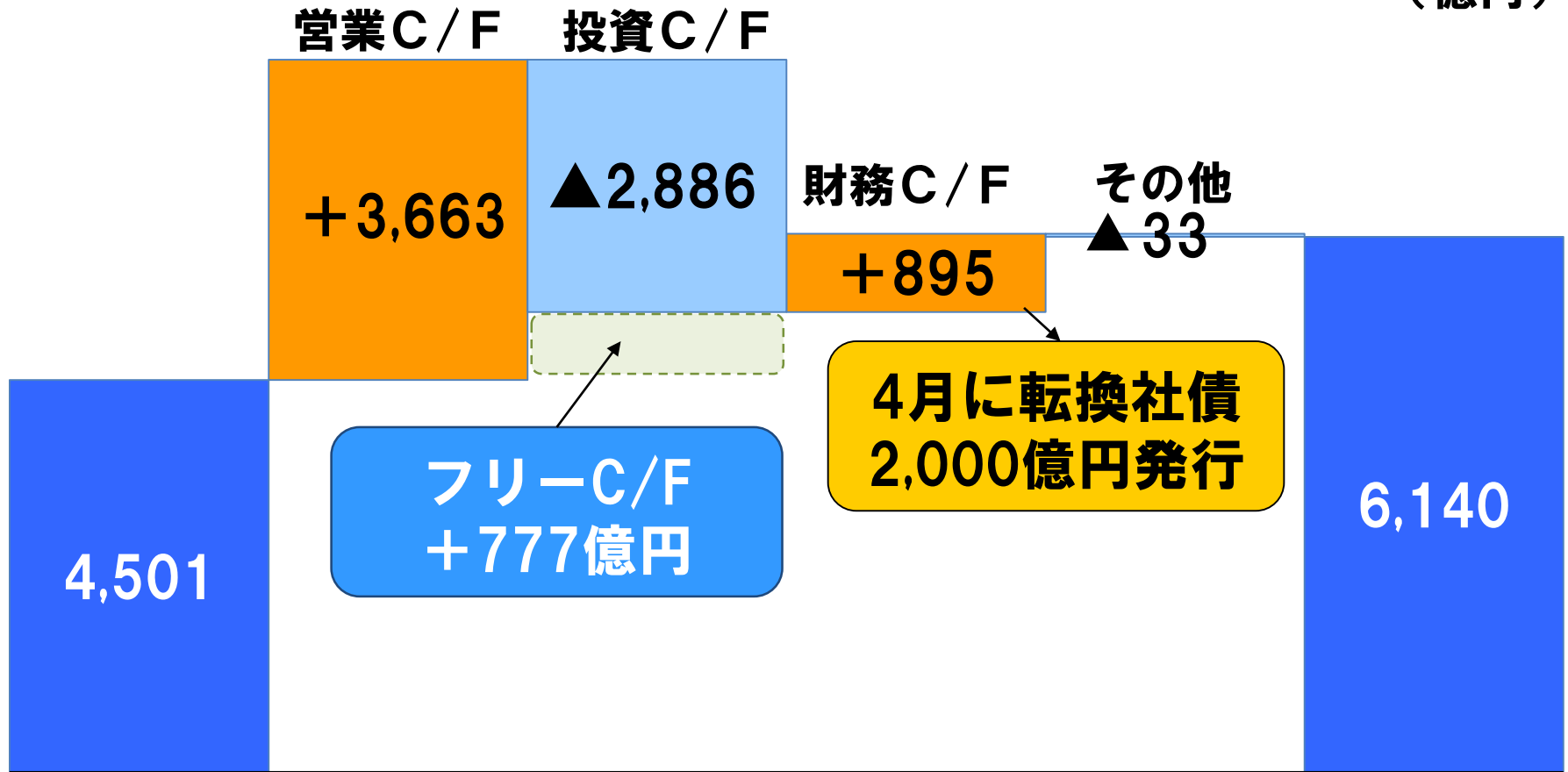
- 光沢感のある外観、光や熱、衝撃に対する耐久性等を満たす樹脂材料（バイオポリカーボネート）を開発し、これに材料着色技術と構造設計技術を合わせて自動車内装部品で実用化したことが評価
- 塗装に匹敵する光沢感のある高い外観の品質を実現
- 揮発性有機化合物（VOC）排出削減など環境負荷の抑制にも貢献



### 最近のスズキ技術に関する受賞歴

	15年度～16年度
市村産業賞	高外観樹脂材料の開発と無塗装材着部品への適用
新機械振興賞	ドライバビリティと使い勝手を向上したAMT
自技会賞	アルミ部品への高耐食性表面処理技術
静岡県 科学技術 振興表彰	二輪車用インジェクション成形燃料タンク
	船外機のダイレクト吸気システム
省エネ大賞	アルミ部品への高耐食性表面処理技術
	鑄造工場における赤外線ヒーター式金型加熱器の導入による省エネ・省力化

(億円)



4月に転換社債  
2,000億円発行

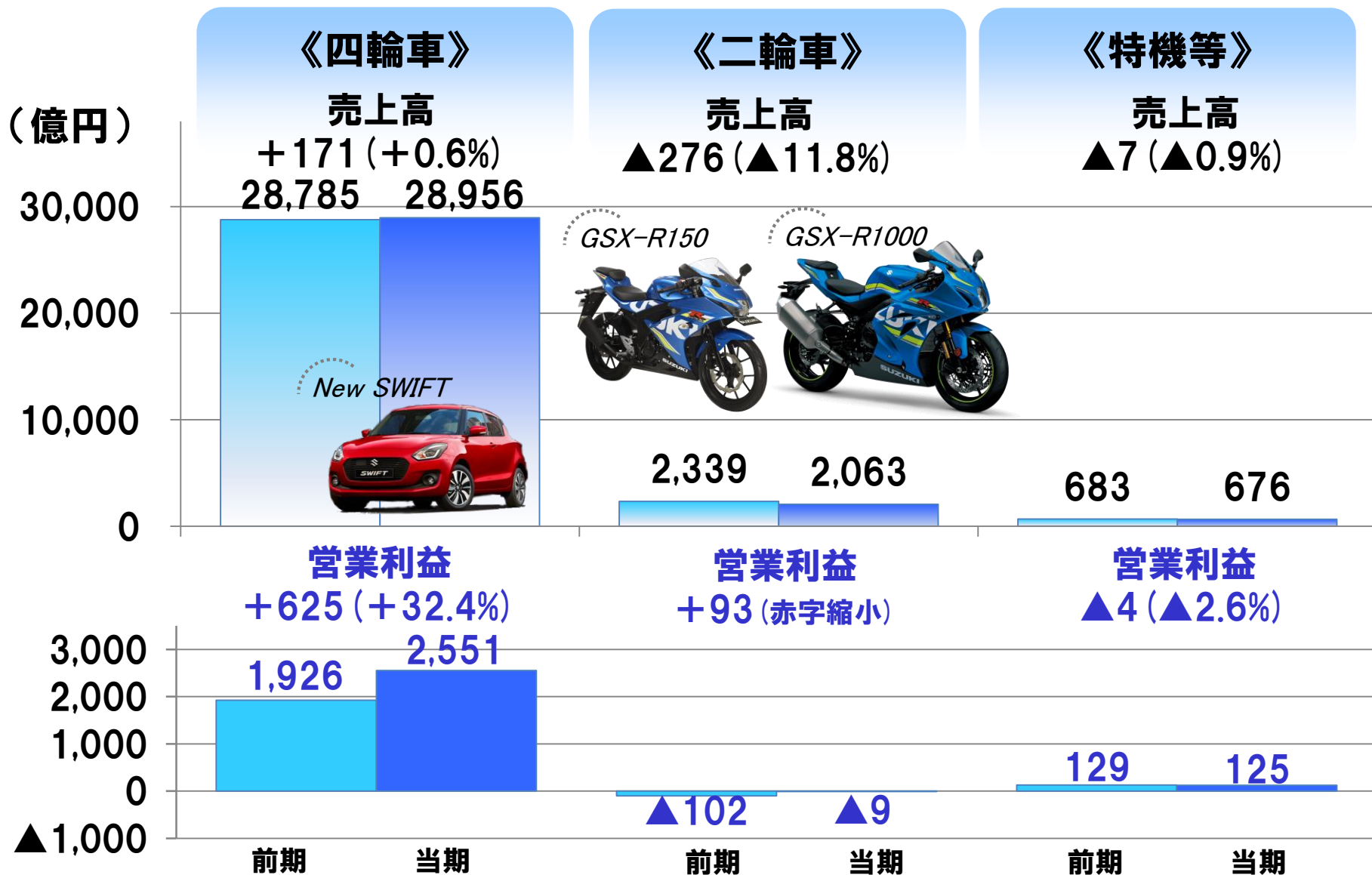
フリーC/F  
+777億円

期首残高

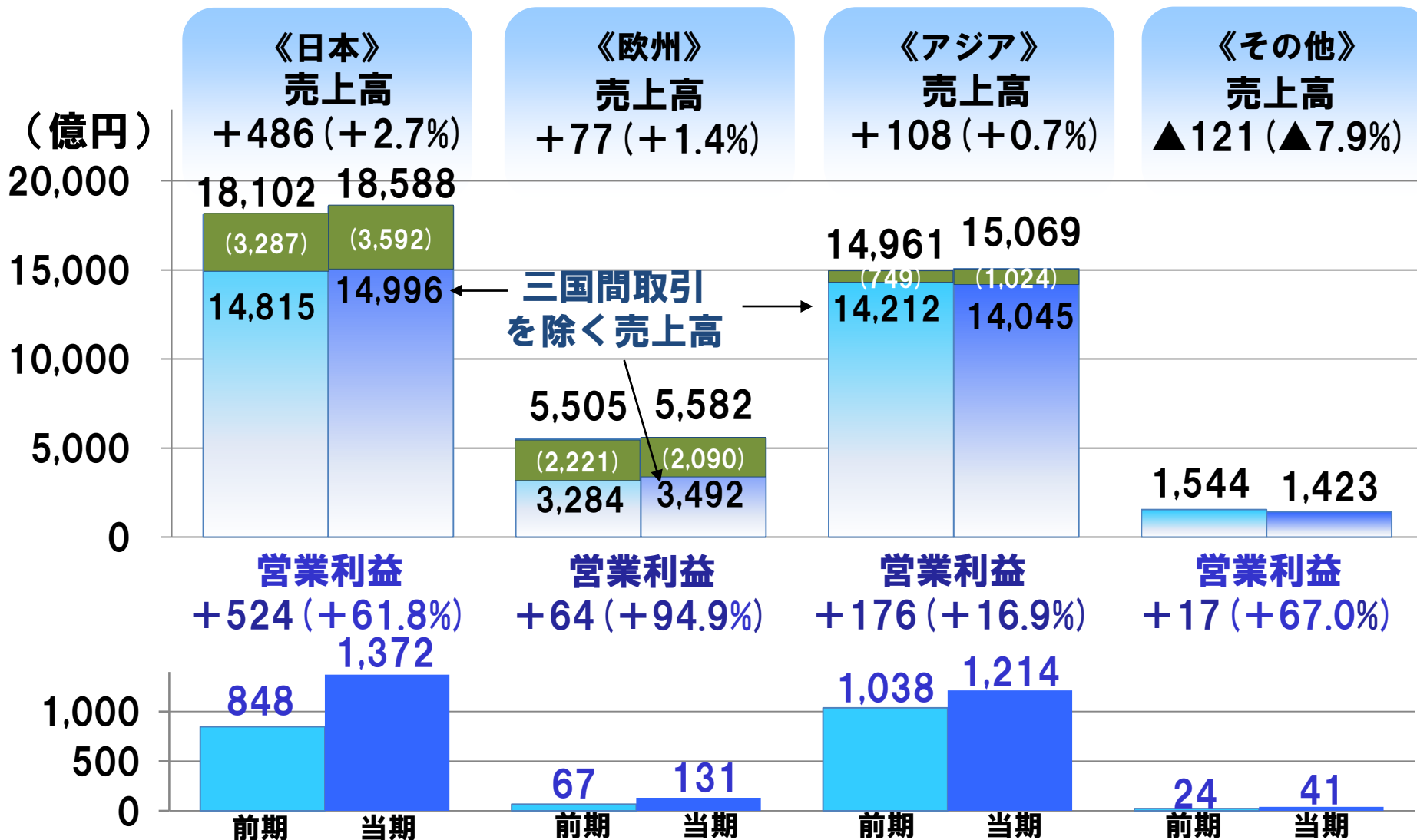
キャッシュ残高 +1,639

当期末残高

# 連結：事業別業績 (売上高・営業利益)



# 連結：所在地別業績 (売上高・営業利益)



注. 三国間取引について

※当期・・・2016年4月～2017年3月期、前期・・・2015年4月～2016年3月期

従来、ハンガリー生産車の欧州域内への子会社向け売上高は、域内子会社間取引として消去されていましたが、取引形態を日本経由の三国間取引に変更したため、日本向け売上高及び日本から欧州への売上高が消去されず、日本・欧州ともに売上高がその分、多く表示されています。アジアについても同様な取引があります。

	当期末	前期末		当第3四半期末	
	('17/3末)	('16/3末)	増減	('16/12末)	増減
連結 子会社数	136社	136社	±0社	136社	±0社
持分法適用 関連会社数	32社	33社	▲1社	32社	±0社
従業員数	62,992人	61,601人	+1,391人	62,652人	+340人

## 増収減益

（億円）

	通期予想			上期予想		
	次期予想	当期実績	増減	次期予想	当期実績	増減
売上高	34,000	31,695	+2,305	16,000	14,990	+1,010
営業利益 （利益率）	2,400 (7.1%)	2,667 (8.4%)	▲267	1,200 (7.5%)	1,155 (7.7%)	+45
経常利益 （利益率）	2,550 (7.5%)	2,867 (9.0%)	▲317	1,250 (7.8%)	1,218 (8.1%)	+32
当期純利益※ （利益率）	1,450 (4.3%)	1,600 (5.0%)	▲150	700 (4.4%)	999 (6.7%)	▲299
設備投資	2,200	1,988	+212			
減価償却費	1,800	1,634	+166			
研究開発費	1,500	1,315	+185			

※親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

### 《通期営業利益 増減要因》

増益要因		減益要因	
原価低減	+270	諸経費等の増	▲400
売上・構成変化等	+223	研究開発費の増	▲190
		減価償却費の増	▲170
増益要因 計	+493	減益要因 計	▲760
		差引	▲267

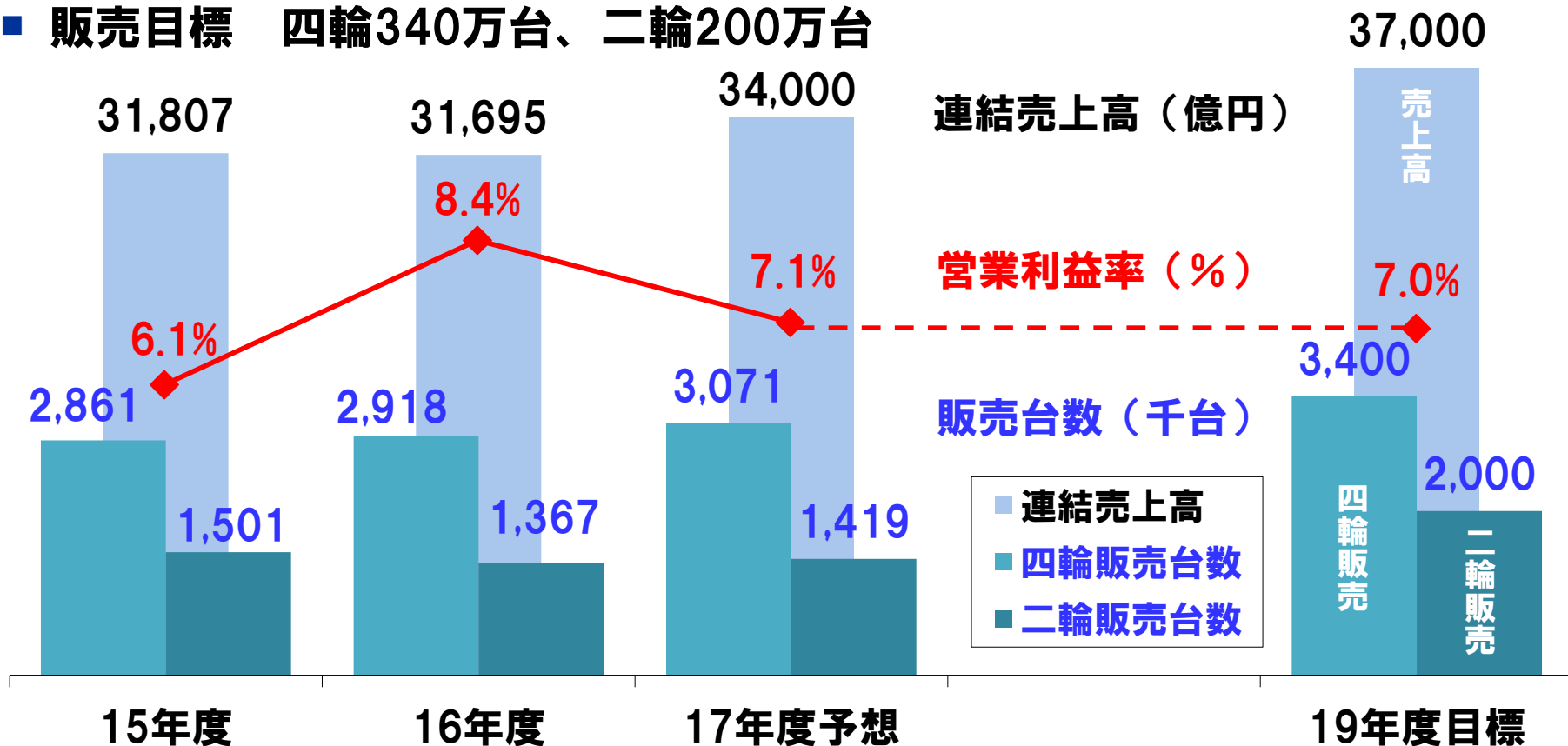
### 《為替レート・為替影響》

	通期予想			営業利益 為替影響
	次期予想	当期実績	増減	
米ドル	110円	108円	+2円	+10
ユーロ	115円	119円	▲4円	▲46
インドルピー	1.65円	1.63円	+0.02円	+26
インドネシア※	0.85円	0.82円	+0.03円	+14
タイバーツ	3.10円	3.08円	+0.02円	▲1
※インドネシアは 100ルピア当り	その他通貨			▲3
	為替影響額 計			±0

## 2019年度中期経営目標値

- 業績目標 連結売上高3兆7千億円、営業利益率7%  
為替前提 1米ドル=115円、1ユーロ=125円、1インドルピー=1.85円
- 株主還元 ROE 10%、配当性向15%以上
- 投資目標 研究開発費2千億円、5ヵ年累計設備投資1兆円
- 販売目標 四輪340万台、二輪200万台

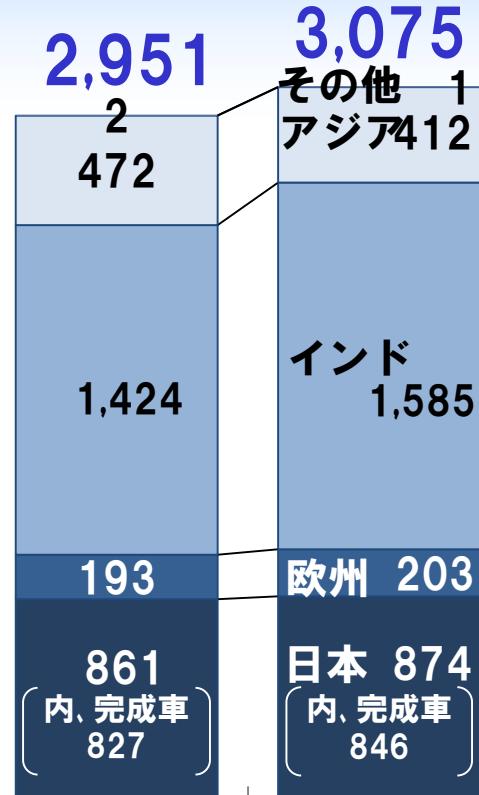
《目標》



## 世界生産は3,075千台で過去最高を更新

### 《4～3月比較》

+124千台 (+4.2%)

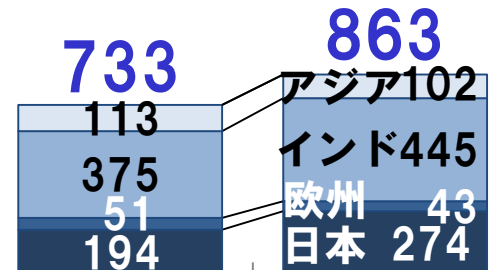


前期 '15/4-'16/3 当期 '16/4-'17/3

### 《内、1～3月比較》

+130千台 (+17.7%)

(千台)

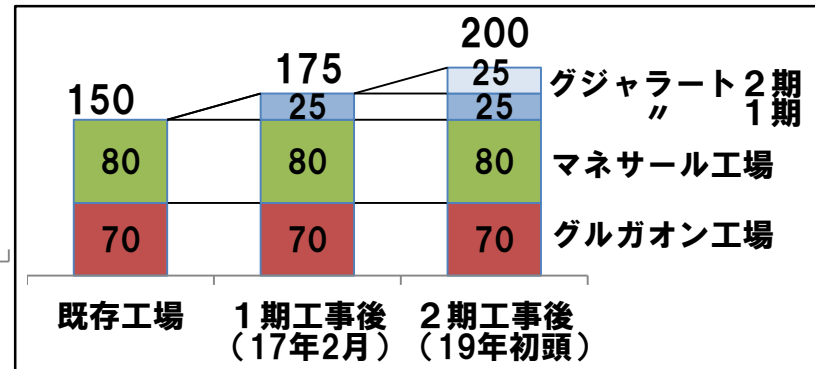


前年同期 '16/1-3 当第4四半期 '17/1-3

### ●当期（4～3月）の世界生産

- 3,075千台（前期比+4.2%）で、過去最高を更新
- インド（同+11.3%）、欧州（同+5.4%）で増加
- 一方、中国（同▲15.1%）、インドネシア（同▲14.9%）等で減少
- グジャラート工場は2月より順調に稼働開始（12千台生産）

### インド四輪生産能力（2勤定時、万台）

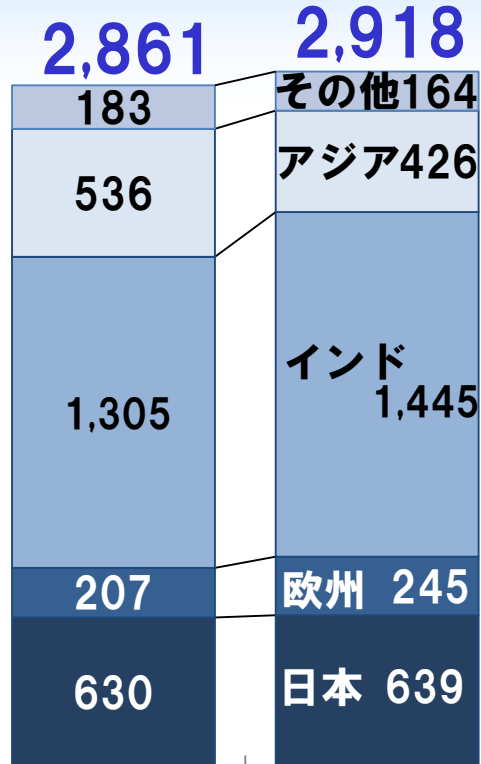




## 世界販売は2,918千台で過去最高を更新

《4～3月比較》

+57千台 (+2.0%)



前期

当期

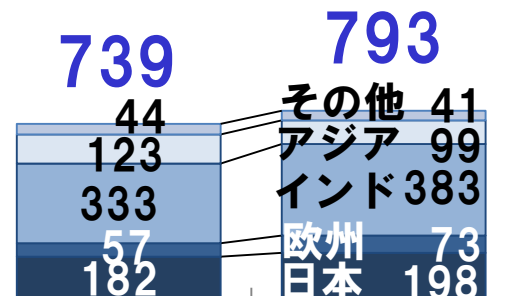
'15/4-'16/3

'16/4-'17/3

《内、1～3月比較》

+54千台 (+7.3%)

(千台)



前年同期

当第4四半期

'16/1-3

'17/1-3

### ●当期（4～3月）の世界販売

- ・2,918千台（前期比+2.0%）で、過去最高を更新
- ・インド（同+10.7%）、欧州（同+18.3%）で増加
- ・一方、中国（同▲20.2%）、インドネシア（同▲23.2%）等で減少

## 「2017ワールド・アーバン・カー部門 TOP3」選出

- イグニスが、WCAが主催するワールド・カー・アワーズの「ワールド・アーバン・カー部門TOP3（上位3モデル）」に選出
- 世界で最も都市に似合う車を選出する部門賞として本年度より新たに設定（評価基準）経済性、環境性、安全性、静粛性、快適性、高速走行性能、取り回し、使い勝手等
- 7車種がノミネートされ、スズキからはバレーノ、イグニスを選出



IGNIS

- ・ 使い勝手の良いスタイリッシュなコンパクトクロスオーバー
- ・ 日本、欧州、インドなど世界42の国、地域で販売



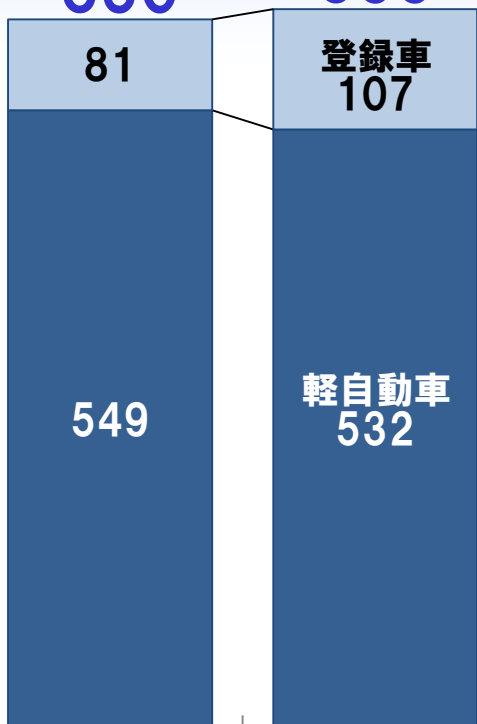
## 登録車の拡大により前年超え

《4～3月比較》

+9千台（+1.4%）

630

639



前期

当期

'15/4-'16/3

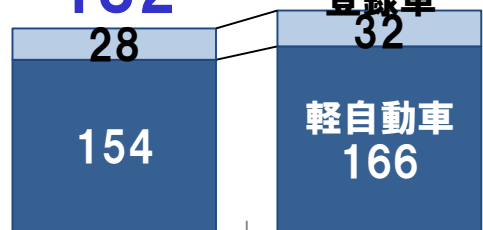
'16/4-'17/3

《内、1～3月比較》

+16千台（+8.8%）

182

198



（千台）

前年同期

当第4四半期

'16/1-3

'17/1-3

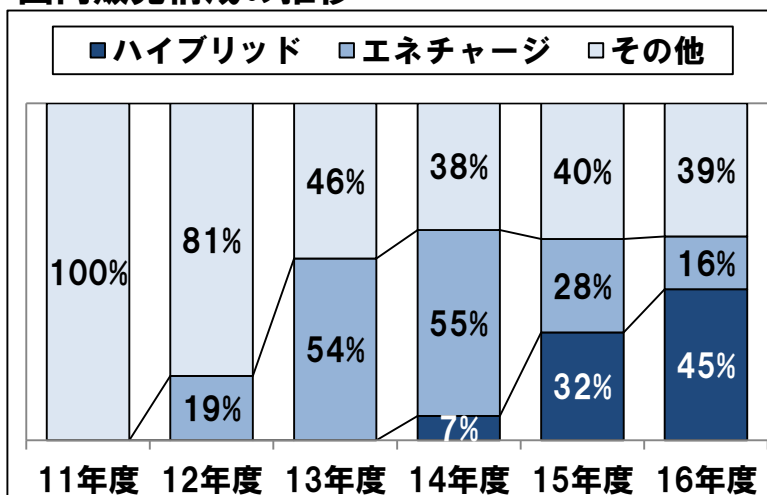
### ●当期（4～3月）の国内販売

- ・軽自動車は前期比▲3.1%
- ・登録車は前期比+31.8%、年度で初の10万台達成（107千台）

### ●トピックス

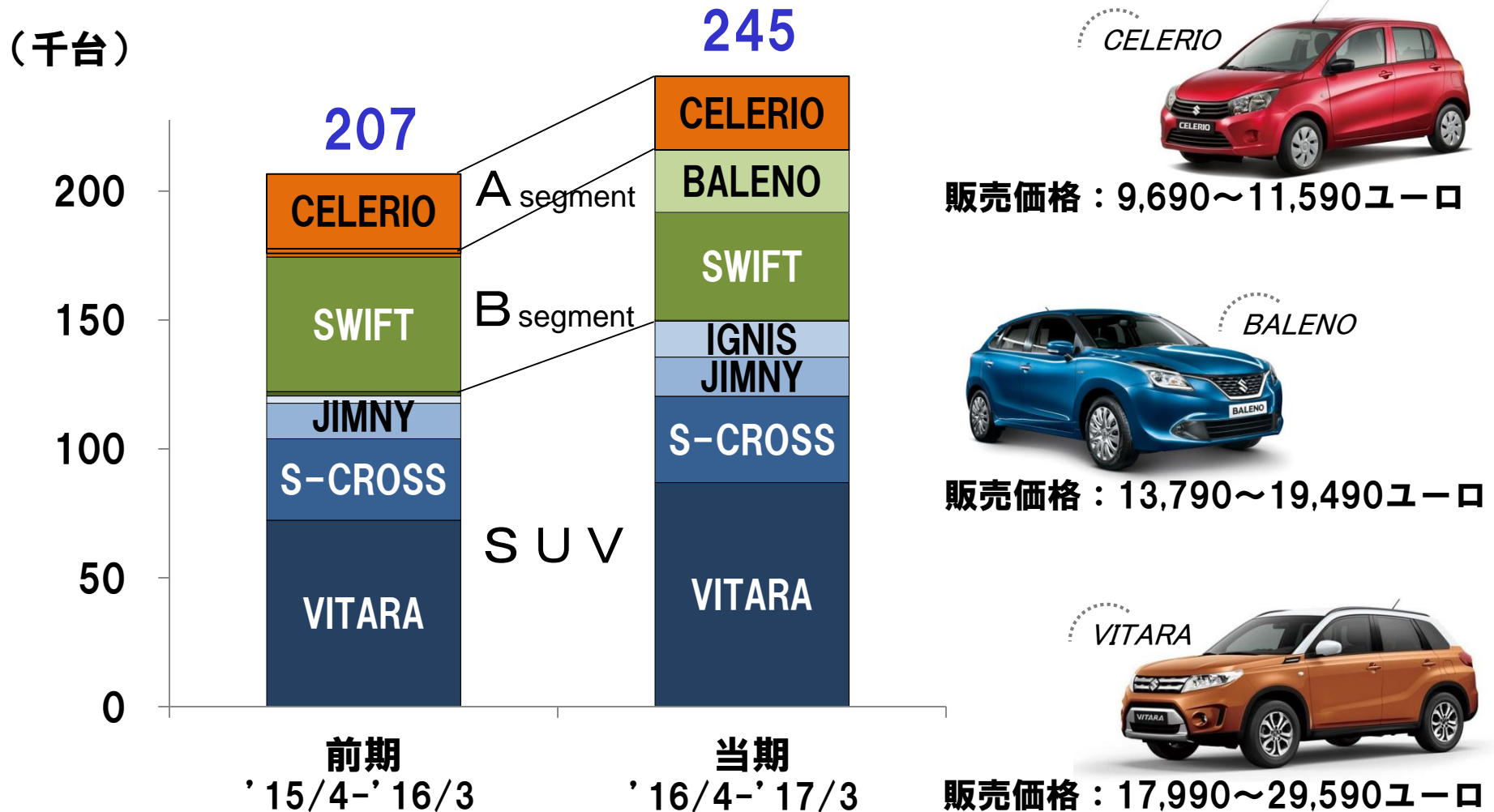
- ・リチウムイオン電池搭載車は国内販売全体の61%を占め、ハイブリッド車は45%まで拡大

### 国内販売構成の推移



注. ハイブリッドにはS-エネチャージを含む。

## 「ビターラ」、「バレーノ」販売増によりミックス改善



注. 販売価格はドイツでの価格

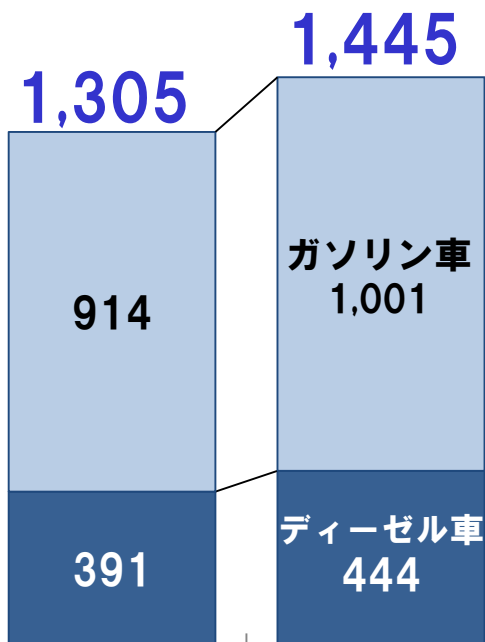
## インドの販売台数は過去最高を更新

《4～3月比較》

+139千台（+10.7%）

ディーゼル車割合

30% → 31%



前期

当期

15/4-16/3

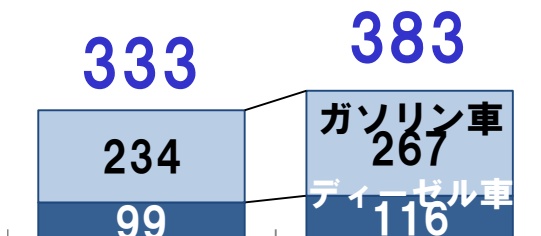
16/4-17/3

《内、1～3月比較》

+49千台（+14.8%）

ディーゼル車割合

30% → 30%



前年同期

当第4四半期

16/1-3

17/1-3

（千台）

### ●当期（4～3月）のインド販売

- 「バレーノ」、「ビターラ・ブレッツァ」等の好調により、1,445千台（前期比+10.7%）で過去最高を更新



### ●トピックス

- 本年3月、「バレーノRS」を投入し、ハイパフォーマンスセグメントに新たに参入



- 「シアズ」を本年4月より、ネクサ店に移管

## スズキ、東芝、デンソー 3社による合併会社設立

- 設立時期 … 2017年中
- 出資比率 … スズキ50%、東芝40%、デンソー10%
- 資本金 … 約20億円
- 設備投資 … 約200億円（当初）
- 生産開始 … 可及的速やかに
- 背景 … インドでは環境への対応が重要な課題  
大衆車に適した環境技術の市場投入  
インド国内でリチウムイオン電池パックの安定供給を実現



インドにおける環境車の普及促進

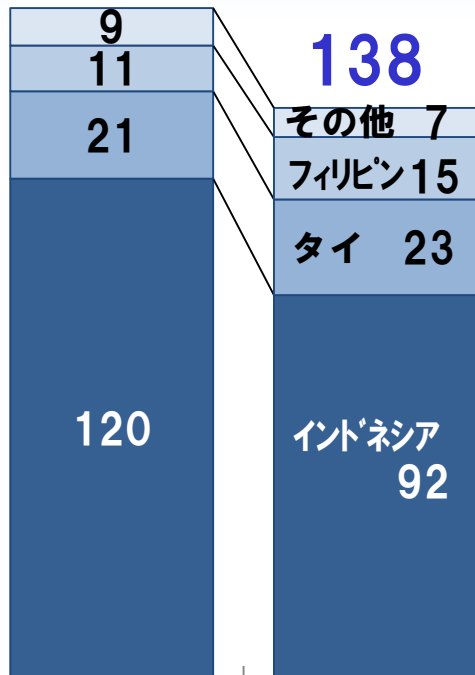
インド政府が掲げる「Make in India」政策に貢献

## インドネシアの販売減等により前年割れ

《4～3月比較》

▲24千台（▲14.6%）

161

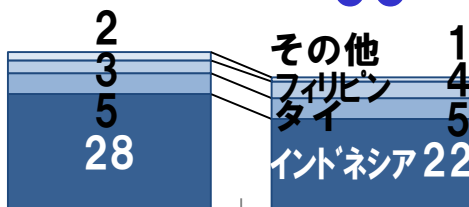


《内、1～3月比較》

▲5千台（▲14.2%）

（千台）

38



### ●当期（4～3月）のアセアン

- ・インドネシアは商用車減により、前期比▲23.2%
- ・タイは「シアズ」の増加により、前期比+7.5%



- ・フィリピンは「セレリオ」、「エルティガ」等が増加し、前期比+37.2%と大幅伸長

前期

当期

前年同期

当第4四半期

’15/4-’16/3 ’16/4-’17/3

’16/1-3

’17/1-3

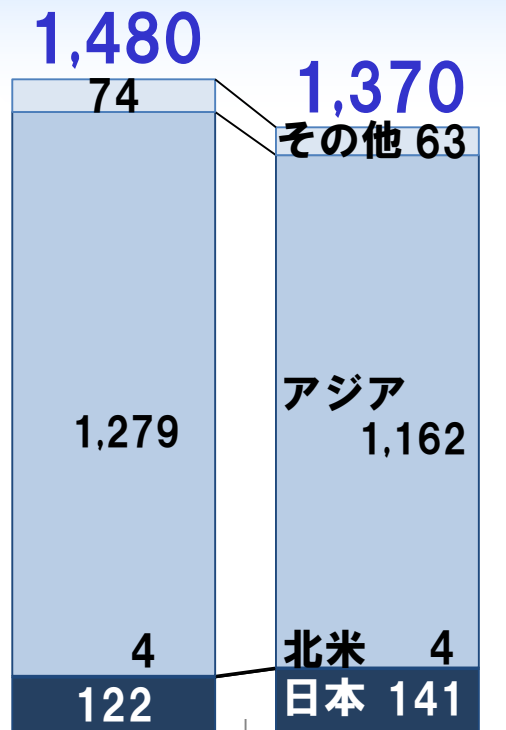
※アセアン：インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム 5ヶ国合計

## 生産・販売ともに前期を下回る

### ●当期（4～3月）の二輪車

- ・インドなどで増加したものの、中国、インドネシアなどの減により、生産▲110千台、販売▲133千台と前期を下回る

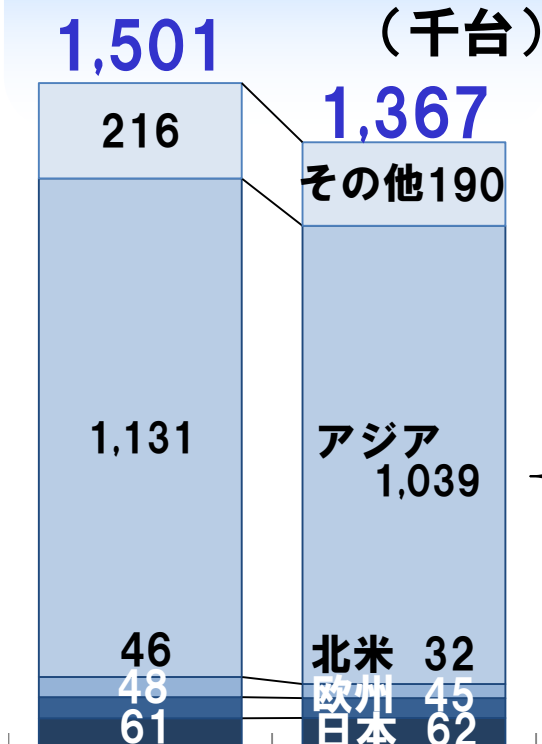
《4～3月生産》  
▲110千台（▲7.4%）



前期

当期

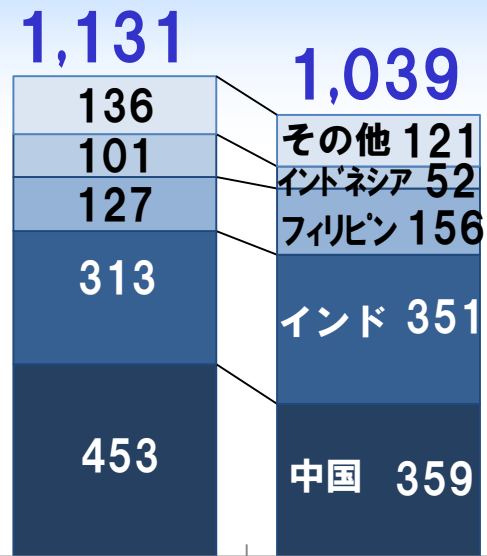
《4～3月販売》  
▲133千台（▲8.9%）



前期

当期

《アジアの内訳》  
▲92千台（▲8.1%）



前期

当期

※当期・・・2016年4月～2017年3月期、前期・・・2015年4月～2016年3月期



## 四輪車、二輪車ともに販売拡大を目指す

(千台)	通期生産台数				通期販売台数			
	予想 (17年度)	前期実績			予想 (17年度)	前期実績		
		(16年度)	増減	増減率		(16年度)	増減	増減率
<b>&lt;四輪車&gt;</b>								
日本	980	874	+106	+12.2%	645	639	+6	+1.0%
欧州	161	203	▲42	▲20.8%	267	245	+22	+9.1%
アジア	2,139	1,997	+142	+7.1%	1,983	1,870	+113	+6.0%
その他	2	1	+1	+51.3%	176	164	+12	+7.1%
合計	3,282	3,075	+207	+6.7%	3,071	2,918	+153	+5.2%
<b>&lt;二輪車&gt;</b>								
日本	158	141	+17	+12.2%	67	62	+5	+8.1%
欧州	—	—	—	—	53	45	+8	+18.1%
北米	5	4	+1	+13.2%	40	32	+8	+25.5%
アジア	1,180	1,162	+18	+1.5%	1,073	1,039	+34	+3.3%
その他	56	63	▲7	▲10.9%	186	190	▲4	▲1.9%
合計	1,399	1,370	+29	+2.1%	1,419	1,367	+52	+3.8%

## 増収増益

(億円)

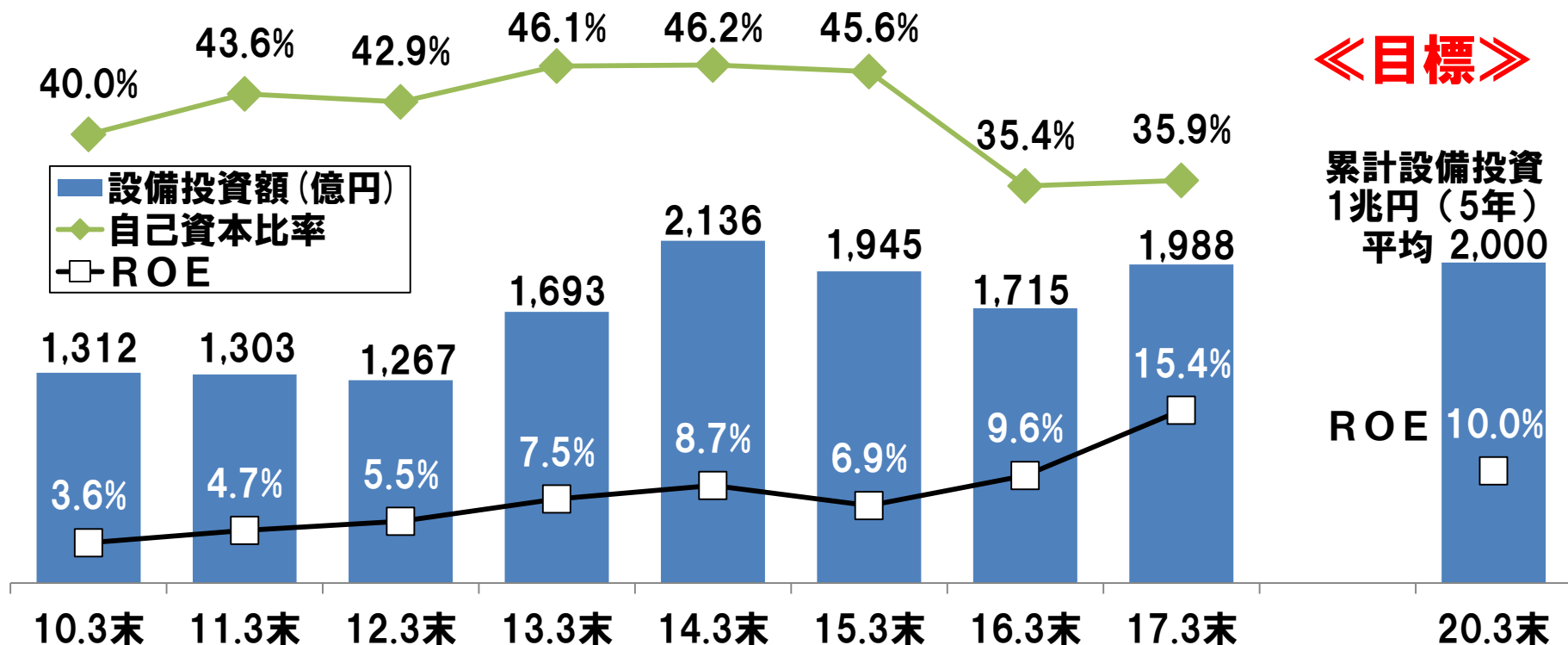
	当 期 (’16/4-’17/3)	前 期 (’15/4-’16/3)	増 減	
			増 減	増減率
売上高	16,878	16,091	+787	+4.9%
国内	8,665	8,468	+197	+2.3%
輸出	8,213	7,623	+590	+7.7%
一 般	4,621	4,337	+284	+6.6%
三国間	3,592	3,286	+306	+9.3%
営業利益 (利益率)	1,064 (6.3%)	518 (3.2%)	+546	+105.4%
経常利益 (利益率)	1,202 (7.1%)	762 (4.7%)	+440	+57.9%
当期純利益 (利益率)	877 (5.2%)	786 (4.9%)	+91	+11.6%

- 新中期経営計画では積極的な投資を計画
  - ・ 5年間累計設備投資1兆円、19年度研究開発費2千億円
  - ・ インドを中心に成長投資を優先
- 前期の自己株式取得により自己資本比率35%台に低下

配当性向目標  
15%以上

早期の改善

## 設備投資、自己資本比率、ROEの推移



《目標》

累計設備投資  
1兆円 (5年)  
平均 2,000

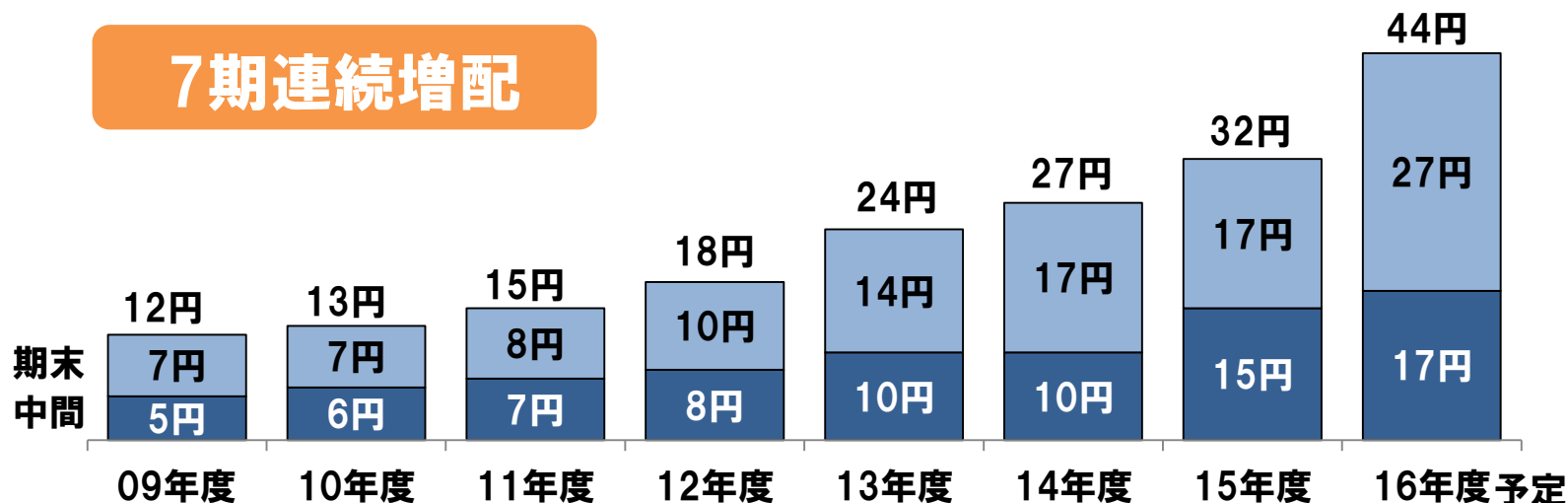
ROE 10.0%

当期配当…通期44円/株（期末27円）、予想比+10円、前期比+12円

- 前期同様、投資有価証券売却益を除く当期純利益を基礎に決定
- 次期予想は据置き

	前期実績	当期予定	次期予想
一株当り年間配当金	32円	44円	44円
配当性向	13.6%	12.1%	13.4%
（投資有価証券売却益を除く配当性向）	（17.3%）	（15.2%）	（－）

## 7期連続増配



# 2017年3月期 決算説明会

**STINGRAY**  
WAGONR



**スズキ株式会社**

## 将来予想に関する注意事項

※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場)などが含まれます。